

施策評価シート(令和元年度)

(基本施策の大綱) 2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実

(基本施策) (1) 地域福祉力の向上

(評価担当者)

健康福祉部長 古田 秀樹

基本施策が目指す姿

市民が、地域での見守りや互いの支え合いの活動により、安心して生き生きと暮らしています。

関連する分野別計画

第2次亀山市地域福祉計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	亀山市ボランティアセンターの登録者数	人	751	H27	697	747	755			900
2	ふれあいいきいきサロン活動及び子育てサロンの設置団体数	団体	60	H27	88	99	123			110
3	生活保護世帯で就労能力・意欲のある者が就労・増収となった世帯の割合	%	50	H27	40	47	43			50以上

市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 ボランティア活動が活発に行われている	重要度	0.82	0.66	重要度、満足度ともに、前回調査からそれぞれ0.16ポイント、0.26ポイント下降している。これは、ボランティア登録者において高齢化が著しく、市内で実施されているボランティア活動自体の認知が市域全体に行き届いていないことが推測される。今後、亀山市社会福祉協議会との連携により、新たな担い手の発掘、育成を強化するとともに、ボランティアに関する情報の周知に努める必要がある。
	満足度	0.21	0.47	
2	重要度			
	満足度			
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			
5	重要度			
	満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	<p>ボランティア連絡協議会の廃止、ボランティアの高齢化など、地域福祉を支えるボランティア力は低下している。そうした中、ボランティアセンターへの登録者の増加、「福祉なんでも相談窓口」の設置により福祉全般の多様な相談の受付開始など、きめ細やかな福祉サービスの充実につながった。また、地域では、ふれあいいきいきサロン、子育てサロン、コミュニティサロンが合計100か所を超えサロン活動がさらに活発化した。さらにCSWの活動により、地域の課題発掘と相談体制の充実につなげることができた。</p> <p>しかしながら、地域での助け合いとしての「ちょこボラ」については、先進地域での独自の活動が進んでいるところはあるが、本格的な事業としての位置づけが遅れたため、総合判定をBとした。</p>
反省点・課題	
<p>若い世代のボランティアの発掘や活動支援を行うことにより、地域での福祉の担い手を増やしていく必要がある。CSWの地域での活動の中から、課題が発見されたものについて、福祉、医療、教育、介護の様々な面から包括的に支援し課題解決を導く連携が必要となってくる。低所得者対策としては、生活困窮者自立支援事業の充実や、毎月開催している支援調整会議での情報共有などで困窮者への自立につなげているが、さらに自立を促すためには困窮者が抱える課題解決のための継続的な支援が必要となる。</p> <p>また、地域での助け合いの仕組みである「ちょこボラ」を実施する地域の拡大のため、さらなる各地域への周知や具体的な活動への支援が必要である。</p>	

今後の展開方針

社会福祉協議会に委託し配置したCSWの活動拡大により発見された地域課題については、専門職をはじめとする各業務担当者により包括的に解決に近づけるよう連携していく。また、毎月開催している支援調整会議を継続し、低所得者の自立に向けた支援策の検討を行う。今後ますます社会福祉協議会との連携を深め、総合相談窓口の充実をしていく。

「ちょこボラ」を実施する地域まちづくり協議会を拡大させることを目的として、市の補助制度の周知や、事業開始に向けた支援を開始する。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		地域福祉を支える人と組織の育成					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	ボランティアセンターの設置及びボランティアコーディネーターを設置し、ボランティアの発掘、登録、育成、団体活動助成等を行う社会福祉協議会に対し、財政的支援を行った。 市内の各社福祉団体等が一同に会し、広く健康増進と福祉・医療等に対する理解・交流を深めるために、あいあい祭り2019を開催した。		ボランティアセンターへの登録、ボランティア団体等は高齢化による担い手不足の傾向にあるため、時代のニーズに合った新しい若い世代のボランティアの育成や、地域の支えあい活動を担うボランティアの仕組みの構築が求められる。あいあい祭りにより団体相互の理解や連携が深まったが、参加団体の固定化や催し内容の見直しが必要である。			
		まずまず進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)		標	71,196 / 66,903	A	A
					/		
事業以外の取組		内容				活動	成果
		社会福祉協議会と連携した地域まちづくり協議会に対する「ちょこボラ」の取組案内				A	B

施策の方向		安心して福祉サービスを利用できる環境づくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	社会福祉協議会に委託する生活困窮者自立支援事業の相談窓口を活用した「福祉なんでも相談窓口」により、福祉全般の多様な相談を受け、関係機関等との連携により対応した。 地域福祉力強化推進事業により、社会福祉協議会にCSWを配置し、地域における多様で複合的な困りごとなどに対し相談・支援を実施した。		複合的かつ多様なニーズに対応できる総合窓口の設置、また行政と社協の密な連携により、きめ細かい福祉サービスの充実に繋がった。 CSWの配置により、各種福祉制度の狭間の問題にも地域に向いて介入し支援できる体制が定着してきた。今後、CSWと更なる連携を図り、包括的に事業を推進できる体制強化が必要である。			
		順調に進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)		標	71,196 / 66,903	A	A
					/		
事業以外の取組		内容				活動	成果
		相談支援包括化推進員の配置				A	B
		「なんでも相談窓口」の設置運用				A	B

施策の方向		地域での助け合い・支え合いのしくみづくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	社会福祉協議会が行う、各種サロン活動に対し補助金を支出し、地域の活動を支援した。(123団体) 社会福祉協議会との連携により、地域まちづくり協議会を対象に、各地区福祉委員会で地域福祉計画及び「ちょこボラ」の普及啓発を行った。		ふれあいいきいきサロンは、全99カ所、子育てサロンは10カ所、コミュニティサロンは14カ所に増え、地域でのサロン活動の充実に繋がった。 各地区で「ちょこボラ」活動への理解が進み、井田川北地区で「井田川北ささえ愛たい」が発足するなど、地域福祉活動の拠点や仕組みづくりが進んだ。			
		まずまず進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	18001	地域福祉力強化推進事業		主	8,400 / 8,400	A	B
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)		標	71,196 / 66,903	A	A
事業以外の取組		内容				活動	成果
		相談支援包括化推進員の配置				A	B

施策の方向		低所得者への支援と自立支援の推進					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	社会福祉協議会に委託した生活困窮者自立支援事業(新規116件、延べ相談598件)により、自立相談支援、住居確保給付金、家計改善支援を複合的に展開し、相談者が抱える課題の解決に向け、伴走的な支援を行った。また、各支援プランについて支援調整会議を毎月開催し、各福祉部署間の情報共有と包括的な支援に繋がった。		支援調整会議の中で各関係部署間で情報を共有し、適正な支援プランをもって、生活困窮者に対し相談支援員が、継続的に丁寧な支援を行うことで、生活保護を受けることなく、困窮者の自立に繋がっている。 終結に至ったケースは9件となった。			
		順調に進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17040	生活困窮者自立支援事業(自立相談支援事業等)		主	14,900 / 14,136	A	B
					/		
事業以外の取組		内容				活動	成果
		「なんでも相談窓口」の設置運用				A	B
		会議体の見直し				A	A